

川崎汽船 現役船長講話および  
ジャパンマリンユナイテッド 呉事業所見学会を実施  
～呉市立倉橋小学校を招待～

日本船主協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、会員会社等と連携して教育関係者に対し商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、川崎汽船およびジャパンマリンユナイテッド（以下、JMU）との共催、呉市教育委員会や地元の船主である菅原汽船や七福組のご協力のもと、11月6日（水）に呉市立倉橋小学校5年生14名を招待し、川崎汽船 現役船長講話およびJMU 呉事業所見学会を実施しました。呉市の小・中学校では当協会作成のDVD“暮らしを支える日本の海運”や日本海事広報協作成の副読本“海運と船と港の役割（呉版）”を利用した授業実践が積極的に行われており、呉市教育委員会からの郷土に根ざした海事産業を知る体験型企画要請を受けて実施したものです。

初めに、川崎汽船 植田船長より世界で6番目となる日本の海の広さやわが国の貿易量に占める海上輸送量などのクイズ、船の種類や運ぶもの、船員の仕事や船内生活など船や船員にまつわる講話を実施し、児童から「船員の楽しみは何ですか」、「どうやって船底の汚れを取るのか」など活発な質問がありました。



（講話をする植田船長）



（船を見上げる児童たち）

その後、JMUの勢戸氏による案内で第三ドックにて建造中のVLCCを見学し、船は巨大なクレーンでブロックを積み上げて造られていることなどの説明を受けました。その他、戦艦「大和」を建造した旧呉海軍工廠造船部造船船渠大屋根や呉事業所内の資料館を見学し、呉と海運や造船の関わりなどを学びました。

児童は「造船所には初めて来た。船のことを詳しく知りたいと思った」、「初めて知ることばかりだったけど、海運は大事な仕事だと分かった」などと笑顔で話してくれました。また、外国との貿易、海上輸送によって日々の生活が成り立っていること、さらに多国籍の船員が力を合わせて船を動かしていることを知り、世界平和の重要性への気付きともなった様です。

児童を引率された金本校長からは「今回の見学会を通して船と地元や人の関わりを勉強することが狙い。当校には海外からの在住者の子弟も在籍し児童は世界への関心が高い。船長や造船所の方々の話を聞き、世界との繋がりを具体的な事例を通して知ることができ、また地元の産業を意識するきっかけとなった。今後の授業では、見学会で学んだことを活かし、遣唐使船と現代の船の大きさの比較などを校内新聞にまとめ、より一層、海運・造船への理解を深めていく予定」とのお話がありました。

なお、当協会では、海事啓発、次世代人材育成の活動の一環で、各地の海洋少年団活動にも協力していることから、同日に、呉海洋少年団の竹川顧問および安岡海上訓練主任と面談しました。両氏からは、2017年に衛藤征士郎衆議院議員（海事振興連盟会長）、寺田稔衆議院議員（呉海洋少年団名誉団長）のお声かけにより再結成した同団の設立経緯や現在に至るまでの活動状況と今後の計画などとともに、地元の海上自衛隊・海上保安大学校から活動拠点の協力を得られる呉ならではの地の利に加え、海運・造船業をはじめとした多くの企業の支援の輪により活動が支えられていることなどを伺い、呉は海運・造船の街であることを改めて認識しました。

海事都市“呉”でのこうした活動、海事産業に触れた授業実践がモデルケースとして全国へ広がっていくことを期待しております。

当協会では、今後とも各自治体や地元企業等からのご協力も仰ぎながら皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動をしてまいります。



(資料館にて見学する児童たち)



(竹川顧問(左)と安岡海上訓練主任(右))